

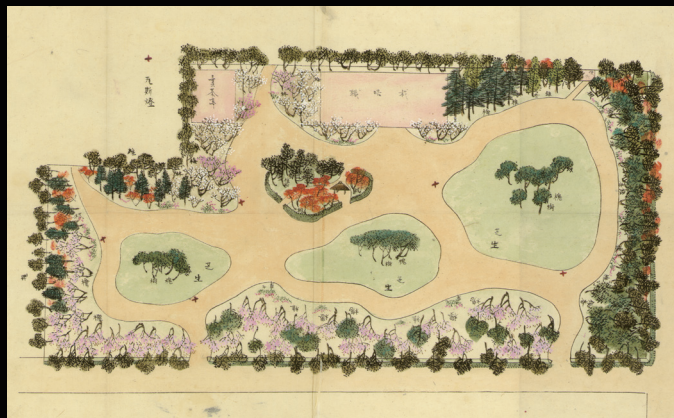
●東京ではじめての市街地小公園
明治22年(1889)開設

坂本町公園は、「東京市区改正設計」に基づく最初の市街地小公園として、元警視庁の避病院跡を活用し開設された由緒ある公園です。

新しい首都の形成を目標としていた東京府は、稠密な市街地に新鮮な大気を提供する園林と空地が、衛生上、必要であると考え、美観の向上、避難地、学校の校庭としても活用できるコミュニティ公園を、阪本小学校に隣接し創り出しました。

設計者は、東京府の長岡安平(ながおかやすへい)で、小高い丘を囲み芝生広場が整備され、エンジュ・椎・樺・ヒノキの森、四季折々の梅・櫻・楓が植栽されました。園路沿いには江戸以来の七草(ななくさ)が植えられ、ガス灯がとり、風雅な涼亭(売茶亭)で憩うことのできる近代公園が誕生しました。

長岡は、その後、全国の近代公園設計のパイオニアとして活躍しました。



坂本町公園改良之図 明治31年(1898)
所蔵：公益財団法人東京都公園協会 東京グリーンアーカイブス



長岡安平

出所：井下清(1926年)『祖庭 長岡安平翁造庭遺稿』

坂本町公園 Sakamotocho Park 2021



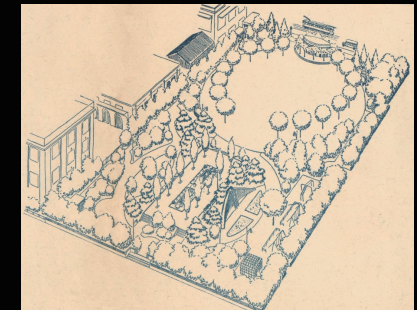
阪本小学校

阪本こども園

桜並木



●関東大震災からの復興：昭和4年(1929)
大正12年(1923)、関東大震災の発生により当該地域は焦土と化し、坂本町公園は、避難民の収容施設や仮校舎用地として利用されました。復興により、新しい公園が昭和4年に竣工しました。設計者は、長岡を師と仰いだ、東京市公園課長・井下清(いのしたきよし)です。小学校と公園を一体化して整備が行われていた坂本町公園の考え方は52カ所の復興公園で継承され、その後、全国の都市で展開されていくことになりました。



坂本町公園 昭和4年(1929)

出所：東京市役所(1929年)「坂本町公園案内」

●受け継がれるコモンズ ～21世紀
戦災により、東京都心は焦土と化しました。戦後整備された公園には、広場、プール等が設けられ、地域の人々の憩いの場として利用されてきました。2016年、阪本小学校の建て替えが行われることとなり、坂本町公園は三度目の再生が行われることとなりました。中央区、阪本小学校、町会、地元企業、中央大学等がワークショップを開催し検討を重ねました。最も大事にしたことは、「子ども達の夢」の実現です。「自然の中で思いっきり遊びたい」という夢が、おおらかな芝生の丘、小川、森となって実現しています。



こどもワークショップ 阪本小学校 2019年6月16日



地域ワークショップ 2019年11月27日